

ハンド

県中学新人浦添市長杯
ハンドボールの第15回浦
添市長杯争奪・第46回県中
学校新人大会最終日は12
日、ANAアリーナ浦添で
行われ、男子決勝は神森が
仲西を29-22で破り2年連
続17回目の優勝を果たし
た。女子決勝は仲西が美東
に18-15で勝ち、3年ぶり
9度目の頂点に立った。

優勝した男子神森と女子
仲西は3月23-27日、富山
県氷見市で行われる第14回
春の全国中学生選手権大会
に出場し日本一を争う。

仲西	10	8	8	7	15	美東
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15
仲西	18	10	8	8	7	15

月23-25日、長崎市で行わ
れる第31回九州選抜大会に
出場する。

「3冠」遺産流れ呼ぶ

スポット

男子神森

男子決勝 神森-仲西 後半、ドリブルで
切り込む神森の外間大心

「全国3冠」を支えた3
年生が抜けた男子神森は、
仲西の粘りに苦しみなが
らも29-22で頂点に立っ
た。

神森勢が主力のJOC
ジュニアオリンピックカ
ップ沖縄選抜に懸かりつ
きりだった友利彬彦監督
が新チームの練習を見た
のは12月末から。それでも
角度的なサイドからシ
ュートを決めるなど高い技
術で、前半17分には9-5
と試合を優位に進めた。
ここで油断が出た。「守
備の戻りが遅くなった。チ
ーム全体が気を抜いてし
まった」とGKの石田龍ノ
介。3連続失点した後に再
び4連続失点。12-12で前
半を終えた。

苦境を打開したのは「全
国3冠」を達成した3年生
の練習で培った新チ
ームの総合力（友利監督）
だった。1点リードの後
た。

半15分、1年生の洲鎌史成
がフェイントを交えなが
ら、相手守備に隠れてG
Kの不意を突くブライ
ンドシュート。「流れを持っ
てよかった」と語
る会心の一発でチームを
勢い付けた。

7得点の外間大心は「先
輩は3冠を達成した。自分
たちも負けられないと思
っていた」と優勝にほと
とした様子。チーム最多10得
点の本永光は「全国大会
までに課題を修正し、一戦
一戦を大切に戦う」と誓っ
た。



男子優勝の神森

仲西 (女子) 優勝 神森 (男子) V2



堅守から小浜反撃口火

女子仲西

ハイライト

2016年に全国小学生大会を
制した浦城のメンバーを擁する
女子仲西が、美東を18-15と接戦
の末に振り切って栄冠を手にし
た。



女子を制した仲西

女子決勝 仲西-美東 前半、シュートを決める仲西
の小浜葵菜里(ANAアリーナ浦添(下地広也撮影))

た。昨年1月の大会決勝は3点差
夏の中学総体決勝は1点差で敗
れたライバルに勝ち、笑顔で喜ん
だ。

168センチの相手エース名嘉陽菜
の得点を抑える作戦が成功した。
当初はサイドに迫る守備陣形
だったが、立ち上がりの緊張でゴ
ール正面への突破を許して4連続
失点。横一線の守備に変更してゴ
ール前に飛び込めぬように仕向
け、名嘉に苦しまぎれのロングシ
ュートを打たせた。

守備が落ち着くと攻撃も機能。
積極性が持ち味の1年、小浜葵菜
里(きらり)は「苦しいときこそ
ゴールで流れをつくる」と前半
終盤の2連続得点で8-8の振り
出しに戻した。

浦城小時代に主将として全国頂
点に導いた田里優生が13-13の
後半18分、左サイドからスペース
に突っ込んでゴールを挙げた。パ
スへ逃げることなく打ちに行っ
たことが良かった。この一発を皮
切りにチームは4連続得点。粘る
美東を突き放した。

このチームでも主将を務める田
里は「全国大会では、試合の最初
からしっかりと流れをつくるプレ
イをしたい」と意欲。GK仲西香翔
は「サイドシュートをもっと止め
られるようにして頂点を目指す」
と誓った。(又吉健次)

美東連覇逃す エース名嘉「悔しい」

女子決勝 仲西-美東
後半、シュートを狙う美
東の名嘉陽菜



2連覇を狙った美東は粘りを見
せたが、仲西に敗れた。エース名
嘉陽菜が序盤の4連続得点で波に
乗せた。だがゴール前を固められ
てロングシュートを強いられる
と、後半は2得点にとどまった。
計9得点の活躍にも「前半のよう
に集中できれば勝てたと思う。後
半はチームにミスが多かったの
で、めっちゃ悔しい」と涙を流し
た。

12月のJOCジュニアオリンピ
ックカップでは県選抜の準優勝に
貢献し、有望選手に選ばれたエ
ースは「体力面では先輩に負けて
いる。一人一人が力をつけ、仲西に
リベンジしたい」と前を向いた。